

令和6年度 横浜市立中学校教育研究会 養護教諭部会

研究部発表会

1 日 時 令和7年1月21日（火） 15時～17時

2 会 場 保土ヶ谷公会堂

3 内 容 中学校養護教諭部会の幹事（区代表）が、「健康実態」「保健教育」は調査結果を資料にまとめて報告、「健康課題」は取り組んだ内容をスライドにまとめ発表しました。日本体育大学の野井教授を招き「たかが実感、されど実感」という演題でお話をいただきました。



【健康実態】 発表者 六ツ川中学校 関野 瑠奈
本郷中学校 関本 凪沙

今年度も養護教諭が活用できるデータとなるように、栄養状態、視力、歯科のデータをグラフ化するとともに話題となっている側わん症やアレルギー疾患などもグラフ化した。職員への研修やほけんだりなどで、客観的かつ説得力のあるデータに基づいた情報を発信する手立てとして活用してもらいたい。

本調査に回答するための作業を「負担」だけで終わらせず、日々の業務や保健活動に活かすことでも自分のためにもなり、子どもたちのためにもなる「価値あるもの」にしていくことができればと思う。

【保健教育】 発表者 緑園義務教育学校（後期課程） 後藤 友里

今年度は「宿泊行事等の事前保健指導」というテーマで、各校が取り組んでいる内容を資料提供してもらった。横浜市立中学校教育研究会養護教諭部会の研究発表会で各区が発表した研究の資料を活用している学校も多くあることが分かった。研究の成果が市内の多くの学校に広まり、活用されていることを知り、私たち養護教諭の日頃の活動が非常に意義のあるものだと実感できた。

【健康課題】 発表者 汐見台中学校 鈴木 麻衣
神奈川中学校 俵木 玲子

アンケート調査の結果、現在の学校の子どもたちの心身の健康に関する課題として頭痛が最も多く、起立性調節障害、リストカット、メンタルヘルス、睡眠等があがった。課題ごとの困難感や、知りたいこともグラフ化した。

結果のワードクラウド化により、「見える化」ができ、問題の所在が分かるようになり、実態、実践、実感の3つの実が大切だということを改めて実感することができた。

【講評】 健康教育・食育課 内山 順子 指導主事

- 調査結果を校内での保健管理・教育に活用できるエビデンスとして使用しやすい内容であり素晴らしい。各校のデータ活用を積極的に使用してほしいし、学校経営計画にも使用できると思う。
- 保健教育の発表については、各校の宿泊学習の事前保健指導（生徒・保護者向け）実践から10の例を項目別にまとめ、「知りたい」についてさらに細かく資料が紹介されていて参考になった。また、参考にしやすい内容にまとめられていて即実践につながると思う。各区での共有と各校での活発な実践へつなげてほしい。
- 健康課題について、アンケート調査により課題が見える化できたことで問題の所在が分かった。それを研修につなげていこうすることは素晴らしい。これが校内連携につながると良い。

【講演】 講師 日本体育大学 体育学部 健康学科 野井 真吾 教授
演題 「たかが実感・されど実感」

子どものからだ、心、生活が「どこかおかしい」「ちょっと気になる」という現場の声や子育て中のお母さん、お父さんの“実感”をたよりに子どもの“からだ”にこだわって“事実”を明らかにし、その“実態”を追求された研究の一部をご講演していただきました。

研究部の研究内容とリンクする部分がたくさんあり、日頃、養護教諭が実感している課題を「見える化」することで、その後の実態を合わせて問題の所在が見え、実践をし、本当にそうだったのか実証していく。それが「証拠が人を動かし、社会をつなげる」ことになるのだということを教えていただきました。

講演の中出てくる「動いてヒトになり、群れて人間になる」の言葉がとても印象的で、私たち人類は今の時代をどのように生きていくべきなのか、学校として養護教諭としてできることを考える良い機会となりました。

